

No. 344【2019年2月15日配信】

地名や街並みにみる青森市の歴史(担当:鈴木)

こんにちは、嘱託員の鈴木です。寒い日が続いていますね。

歴史資料室ではこれまでの展示に加え、昨日から新しい館内展示を始めました。テーマは「地名や町並みに見る青森市の歴史」です。場所は8階の階段右手奥の壁面になります。今回は、この展示について少しご紹介したいと思います。

街の中に、旧町名と由来が書かれた木製の標柱をよく見かけますね。これらの標柱は、平成5年(1993)に始まった「青森市旧町名・ゆかりの地表示事業」により立てられたものです。かつて青森の市街地には、そこに住む人々の職業や町の成り立ちを示す町名が存在していましたが、昭和41年(1966)以降は住所表示と区割りの整備により、多くの町名は使われなくなりました。しかし、この標柱に書かれた以外にも市内には由緒ある町名が存在していたのです。



旧町名の標柱

「大正町」「石井町」「大坂町」「砂原町」「桜町」「御園町」という町名を耳にしたことはありますか。これらもかつて青森市内に存在した地名でした。俗称ではありましたが、場所によっては郵便もこの住所で届いたそうです。今でも町会の名前や地域を指す名称として残っているものもありますので、近くにお住まいのかたはご存知のことと思います。

さらに「探偵堰」「練兵町」「銃丘町」。ネーミングの由来が気になりますね。

「旧線路通り」「旧税務署通り」の名称もよく聞きますが、いつから「旧」になったのでしょうか?

こうした地名にまつわるあれこれをご紹介しますとともに、市内の古い写真、懐かしい写真なども展示しています。

また、明治9年(1876)に完成した青森県の地誌『しんせんむつこくし新撰陸奥国誌』の中から、現在の青森市域にあたる町村の地名となりわいに関する記述を抜き出して一覧にしました。この頃の町や村には、まだ江戸時代の様子が残っていたと思われ、近代化する以前の地域の姿が記されています。その中には各村の名産品もいくつか紹介されており、「浦町漬」(これはどこかすぐわかりますね! )「わらび餅」(以前のトリビアに出てきました)「ぶどう」を作っていた村があったことがわかります。

また、明治31年の市制施行当時と比較して面積が140倍となった青森市域は、どのように拡大してきたのかを冊子にまとめてみました。常設展示の予定ですので、ご来館の際にはぜひお立ち寄りいただければと思います。